

# N8190-163/164 Fibre Channel コントローラ

## ファームウェア適用手順・注意事項

N8190-163/164 のファームウェアバージョンが「12.8.528.12」より古い場合は、Starter Pack DVD からのファームウェアアップデート後の再起動ができずに停止することがあります。

「2-2-2./ 2-3-1. ファームウェアのアップデート」を実施する前に、本手順書の【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、N8190-163/164 のファームウェアバージョンが「12.8.528.12」より古い場合は本手順書の【N8190-163/164 無効化】を参照して、N8190-163/164 を無効化した後に「2-2-2./ 2-3-1. ファームウェアのアップデート」の手順を実施してください。ファームウェアのアップデート後に本手順書の【N8190-163/164 有効化】を参照して N8190-163/164 を有効化して、StarterPack 適用を継続してください。

また、ファームウェアバージョンが「14.2.589.5」の場合は接続したストレージデバイスが認識できないことがあります。StarterPack 適用及び OS のセットアップ完了後に、本手順書の各 OS 用【適用手順】を参照して、「14.0.499.29」のファームウェアを適用してください。

適用後は本手順書の【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョンが「**14.0.499.29**」となっていることを確認してください。

### 【ファームウェアバージョン確認方法】

下記のいずれかの方法でファームウェアバージョンを確認することができます。

#### <システムユーティリティ(System Utilities)での確認方法>

- 1) POST で F9 を押してシステムユーティリティ(System Utilities)を起動します。
- 2) システム構成(System Configuration)を選択します。
- 3) 対象の Fibre Channel コントローラを選択します。  
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。  
N8190-163/164: SN1200E
- 4) アダプター情報を表示する(Display Adapter Info)を選択します。
- 5) ファームウェアバージョン(Firmware version)を確認します。

#### < iLO WEB インターフェースからの確認方法 >

- 1) マネージメント LAN 経由で接続し、iLO メニューを表示させ、「ファームウェア & OS ソフトウェア」を選択してください。
- 2) 「製品名」「ファームウェアバージョン」が表示されます。  
対象となる製品の製品名とファームウェアバージョンを確認してください。  
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。  
N8190-163/164: SN1200E

#### 【N8190-163/164 無効化】

- 1) POST で F9 を押してシステムユーティリティ(System Utilities)を起動します。
- 2) システム構成(System Configuration)を選択します。
- 3) BIOS/プラットフォーム構成(RBSU) (BIOS/Platform Configuration (RBSU))を選択します。
- 4) PCIe デバイス構成 (PCIe Device Configuration)を選択します。
- 5) 対象の Fibre Channel コントローラが搭載されたスロットを選択します。  
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。  
N8190-163/164: SN1200E
- 6) PCIe デバイスが無効 (PCIe Device Disable) の設定値を自動 (Auto) から無効 (Disabled) に変更します。
- 7) F10 を押して設定を保存します。
- 8) PCIe デバイス構成 (PCIe Device Configuration)に戻って、同様の手順で全ての対象 Fibre Channel コントローラが搭載されたスロットを無効 (Disabled) に変更します。
- 9) 全ての対象 Fibre Channel コントローラが搭載されたスロットを無効 (Disabled) にして設定を保存したら終了を押して本体装置を再起動します。

#### 【N8190-163/164 有効化】

- 1) POST で F9 を押してシステムユーティリティ(System Utilities)を起動します。
- 2) システム構成(System Configuration)を選択します。
- 3) BIOS/プラットフォーム構成(RBSU) (BIOS/Platform Configuration (RBSU))を選択します。
- 4) PCIe デバイス構成 (PCIe Device Configuration)を選択します。
- 5) 【N8190-163/164 無効化】で無効化したスロットを選択します。
- 6) PCIe デバイスが無効 (PCIe Device Disable) の設定値を無効 (Disabled) から自動 (Auto) に変更します。
- 7) F10 を押して設定を保存します。
- 8) PCIe デバイス構成 (PCIe Device Configuration)に戻って、同様の手順で【事前準備】で無効化した全てのスロットを自動 (Auto) 設定に戻します。
- 9) 【事前準備】で無効化した全てのスロットを自動 (Auto) にして設定を保存したら、終了を押して本体装置を再起動します。

## 【Windows Server 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから「TPM Visibility」を[Hidden]にします。システムユーティリティから設定する手順は「メンテナンスガイド（共通編）」を参照してください。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) サーバに管理者権限でログインして Starter Pack S8.10-011.04 の/16g\_fc/e/win/に収録された exe ファイルを任意のフォルダにコピーします。
- (3) コピーした exe ファイルをダブルクリックします。
- (4) 「パッケージセットアップ」ウィンドウが起動するので、バージョンが「2023.03.01」となっていることを確認して「インストール」をクリックします。
- (5) メッセージが表示されますので再度「インストール」をクリックします。
- (6) インストールが実行されます。完了まで数分かかります。途中ウィンドウのタイトルバーに「セットアップ(応答なし)」と表示されることがありますが、そのままお待ちください。
- (7) インストールが完了したことを確認したら「閉じる」をクリックします。
- (8) システム再起動が要求されたら「はい」をクリックして再起動します。  
再起動が要求されない場合は手動で再起動します。  
※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。
- (9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認してください。
- (10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

## 【RHEL 用適用手順】

(1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから「TPM Visibility」を[Hidden]にします。システムユーティリティから設定する手順は「メンテナンスガイド（共通編）」を参照してください。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。

(2) サーバに root ユーザでログインします。

(3) 光ディスクドライブに Starter Pack S8.10-011.04 をセットします。

(4) マウントポイントを作成します。作成済みの場合は、本操作は不要です。

```
# mkdir /media/cdrom
```

(5) Starter Pack S8.10-011.04 をマウントします。

```
# mount -r -t iso9660 /dev/sr0 /media/cdrom
```

(6) /16g\_fc/e/rhel ディレクトリへ移動します。

```
# cd /media/cdrom/16g_fc/e/rhel
```

(7) 以下のコマンドを順番に実行します。

```
# rpm -Uvh firmware-fc-emulex-2023.03.01-1.3.x86_64.rpm
```

```
# ./setup -f
```

(8) OS を再起動します。

```
# reboot
```

(9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認してください。

(10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

## 【ESXi7 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから「TPM Visibility」を[Hidden]にします。システムユーティリティから設定する手順は「メンテナンスガイド（共通編）」を参照してください。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) Starter Pack S8.10-011.04 の/16g\_fc/e/esxi7/に収録された ZIP 圧縮ファイルを、VMware Host Client を起動する PC にコピーします。
- (3) VMware Host Client を起動します。管理者権限のあるユーザーで ESXi に接続し、ESXi をメンテナンスモードに切り替えます。  
※メンテナンスモードへの切り替えは、VMware Host Client で ESXi に接続し、[ナビゲータ]の中の[ホスト]を右クリックして、[メンテナンス モードへの切り替え]をクリックします。
- (4) [ナビゲータ] の中の [ストレージ] をクリックすると、データストアの一覧を表示します。ZIP 圧縮ファイルをアップロードするデータストアの上で右クリックし、[参照] をクリックします。
- (5) [アップロード]をクリックします。
- (6) 表示したアイテムのアップロード画面で ZIP 圧縮ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
- (7) アップロード/ダウンロード操作に関する警告ダイアログが表示された場合、[はい]をクリックします。
- (8) データストアブラウザにアップロードした ZIP 圧縮ファイルが表示されると、アップロードは完了です。
- (9) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択します。  
ダイレクトコンソールまたは SSH による ESXi Shell へのアクセスを有効にし、管理者権限のあるユーザーで ESXi Shell にログインします(ダイレクトコンソール画面で ESXi shell にログインをする場合は[Alt] + [F1] キーを押します)。
- (10) 以下のコマンドを実行し、ZIP 圧縮ファイルを解凍します。  
# unzip [Path]CP055838.zip  
※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを格納したディレクトリを絶対パスで記述します。

(11) ZIP 圧縮ファイルを解凍して得られた CP055838\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、実行権限を付与します。

```
# chmod +x [Path]CP055838_VMw.zip
```

※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)

(12) 実行権限を付与した CP055838\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントをインストールします。

```
# esxcli software vib install -d [Path]CP055838_VMw.zip
```

※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)

(13) 以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントがインストールされたディレクトリに移動します。

```
# cd /opt/Smart_Component/<CP055838>
```

(14) 以下のコマンドを実行し、ファームウェアを適用します。

```
# ./Execute_Component
```

(15) reboot コマンドを実行し、サーバを再起動します。

※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。

(16) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認します。

(17) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

(18) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択し、ESXi Shell のアクセス設定を元に戻します。  
また VMware Host Client で ESXi に接続し、メンテナンスモードを解除します。

## 【ESXi8 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから「TPM Visibility」を[Hidden]にします。システムユーティリティから設定する手順は「メンテナンスガイド（共通編）」を参照してください。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) Starter Pack S8.10-011.04 の/16g\_fc/e/esxi8/に収録された ZIP 圧縮ファイルを、VMware Host Client を起動する PC にコピーします。
- (3) VMware Host Client を起動します。管理者権限のあるユーザーで ESXi に接続し、ESXi をメンテナンスモードに切り替えます。  
※メンテナンスモードへの切り替えは、VMware Host Client で ESXi に接続し、[ナビゲータ]の中の[ホスト]を右クリックして、[メンテナンス モードへの切り替え]をクリックします。
- (4) [ナビゲータ] の中の [ストレージ] をクリックすると、データストアの一覧を表示します。ZIP 圧縮ファイルをアップロードするデータストアの上で右クリックし、[参照] をクリックします。
- (5) [アップロード]をクリックします。
- (6) 表示したアイテムのアップロード画面で ZIP 圧縮ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
- (7) アップロード/ダウンロード操作に関する警告ダイアログが表示された場合、[はい]をクリックします。
- (8) データストアブラウザにアップロードした ZIP 圧縮ファイルが表示されると、アップロードは完了です。
- (9) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択します。  
ダイレクトコンソールまたは SSH による ESXi Shell へのアクセスを有効にし、管理者権限のあるユーザーで ESXi Shell にログインします(ダイレクトコンソール画面で ESXi shell にログインをする場合は[Alt] + [F1] キーを押します)。
- (10) 以下のコマンドを実行し、ZIP 圧縮ファイルを解凍します。  
# unzip [Path]CP055839.zip  
※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを格納したディレクトリを絶対パスで記述します。

(11) ZIP 圧縮ファイルを解凍して得られた CP055838\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、実行権限を付与します。

```
# chmod +x [Path]CP055839_VMw.zip
```

※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)

(12) 実行権限を付与した CP055839\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントをインストールします。

```
# esxcli software vib install -d [Path]CP055839_VMw.zip
```

※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)

(13) 以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントがインストールされたディレクトリに移動します。

```
# cd /opt/Smart_Component/<CP055839>
```

(14) 以下のコマンドを実行し、ファームウェアを適用します。

```
# ./Execute_Component
```

(15) reboot コマンドを実行し、サーバを再起動します。

※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。

(16) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認します。

(17) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

(18) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択し、ESXi Shell のアクセス設定を元に戻します。  
また VMware Host Client で ESXi に接続し、メンテナンスモードを解除します。